欧米列強の進出と条約改正の道のり

ポイント1　列強と帝国主義

＿＿＿にあてはまる語句を確認しましょう。

欧米列強による進出

資料1　アフリカをまたぐ巨人

帝国主義：原料や市場を求め，軍事力によって植民地を広げる動きや考え方

19世紀後半　欧米の **列強** はアジア・アフリカ・太平洋の島々に進出

↓

多くの地域が植民地として支配され，世界は列強によって分割される

ポイント2　条約改正へ

＿＿＿にあてはまる語句を確認しましょう。

条約 改正までの流れ

年	交渉の内容など
1872年	岩倉使節団が改正の交渉を開始
1878年	アメリカとの関税自主権の交渉に成功 イギリスなどの反対により失敗
1882年～	**欧化政策**：欧米の風習を取り入れる政策 外務卿のち外務大臣：井上馨が **鹿鳴館** を建てる（1883年）
1886年	ノルマントン号事件
1894年	**領事裁判権（治外法権）** を撤廃 外務大臣：**陸奥宗光**
1911年	**関税自主権** を回復 外務大臣：**小村寿太郎**

資料2 鹿鳴館

資料3 ノルマントン号事件風刺画

確認テスト

次の問いに答えなさい。

(1) 列強がアジアやアフリカなどを軍事力によって植民地支配して世界を分割した動きを何というか。 ＿＿＿＿＿＿＿＿

帝国主義

(2) 欧化政策を行ったときの外務大臣は誰か。 ＿＿＿＿＿＿＿＿

井上馨

(3) 欧化政策の一つとして1883年に井上馨が建てた西洋風の建物を何というか。 ＿＿＿＿＿＿＿＿

鹿鳴館

(4) 外務大臣が陸奥宗光のときに結ばれた日英通商航海条約で撤廃された不平等な内容は何か。 ＿＿＿＿＿＿＿＿

領事裁判権（治外法権）

(5) 1911年に小村寿太郎外相によって回復された権利は何か。 ＿＿＿＿＿＿＿＿

関税自主権